

環海異聞

又



k 44

富士山文庫



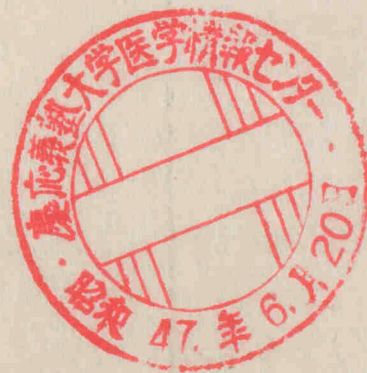
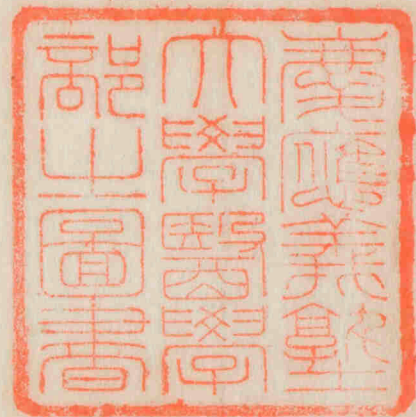
290.9

Ka

7

290.9
K

No. 2521
12 K 44



富士川文庫

170

海環

環海異聞卷之十



國王目見其事

カラフの宅又十五日迄留せ——と云へ——五月
十七日又あり明十五日王目見事終りし事
てお涙を以て目見事終りし事
一あり終りし事終りし日カラフに
せり命有りし事終りし月代取とあり

装束羽の氏も助展就八全所も若く茂以所正助
その年帰朝の臣人於合拾人百揃ひに足るの事
のせられ〜新あるガラフの宅より八三に町様を
とる由王宮町の町よりて城造りとる是迄を
交接への所あり一方ハ川流をわたり二面ハ島嶼
彼門地取高かつす廣サ或丁に方もある處一門
内六番人にとるは女側と或人宛銃炮を指す事
表通に面する事と其處のや〜石造りて内をまたて

續り多殿一坪五階作りの中一階毎に硝子障
子あり和より重なる事と其窓より五階の事と
知れ〜れり大つの幅葉車五軸並へて自由な處
あり程々葉門の役人等〜何れも殿中へ入り
は風光より自然と〜外は松と若木なり又幾
階といふやハ知れ〜三階目といふ所より五
りの家より内より板室の際に橋を架す横幅七
八間程ありを橋乃と云厚く土を築き〜住居と

中尉あり北指さるる官もれく其場所あるこれ
年れ共細きいへく産列を定めく側人役人
西人接見所。右役人の内何れもへせし
目見えの時を待つるものもあるへく名はあへり
しきとも又海といへく度なる会談所とす
此より可仕く公事せしめしむる所がラフ
先ききふくく帝王代始先母后皇太后君一同に
あへり母后と帝王と自よりとせしめしむる所

たふりこれみすたふとあゆむるもの
彼等の風俗よりたふとあゆむるもの

王の相貌恭々

お國者あり勿体なく惜みされは是へたり
座りてそをわけ平伏せんといへり
一役人けふいふものへてはこれより平座
するものなりといひける何れも起ちてあへり
とさけ居これハ母后を道あるより無きと
たふえふくく自より指さるるものあるは
一なるハ王の事あるはこれなり

うして止められしう后ハ英藩ある装束に
例女中と云はれしもの五人附そひ下座ありて
を背移りすあへハ後隔りて立ちあがり年若
き女姓のするれ恥へあがりて思われしう

一帝之の被飾結構ある藍天裁書紙の履沙

と云申た肩下ハ張絲の星のはきたるおこ

勇姿、ニタといふものとかけられしう中若

の被飾の星ハ金絲なり
大畏 雜事 記
等よあま

冠といふ被の物をれ——王の名オレキサンダラ

バウロウイと移する——け年古き歳と云

母后皇后より安垂珠ミニタブよ孔を穿ち何うえ

事れるものを垂りく襟へも金玉を穿き

たる殺珠の如きおどかく后ハも襟カフミと云

の如き被の如て被しきものうて髪成

結ひ封ふてとあつる被と云ゆ

男女何れも髪へハ白き粉を塗りこのく根ミラ

髪のやうな髪ゆるるり

母后は名マリア ヒョータロオナ

后の名はマリア イメツといふはう嫁

あられしうき

身名の名 コシノキノ ハウロイチ 年廿三

と云ふ

一は時王は附属の近侍の人ハガラフの如

一人もえんま椅子を御座中より飾あはる

王宮一部を捕へる物と云ふれども城接ひ

と云ふはす郭中一郭は玉階造りよ造り

建たる宮殿と云ふ中へ入つて玉階階を

あすりを知りたうといふ間毎の窓は

玉階ありといふ説を信と云ふといふ

造りといふたうあるを承へるも

これを同尋ねるも誰は強うをひき

造建廣大精巧をおせりといふ

魯西亜人闢地于
萬方其謀立於
以德伏人乎船師
者昇賤也新威豈
不先告其案乎
然王と為謁丁寧
至矣蓋其意船
師帰回之後互に
欲令其徒諸君
仁德耳故其殘
望之徒已示異呼
漸く伏人計真
可惡哉編者に
断已端其計
中可思し

るゝとすう
王宮へ漂流人お宿の式極ありて殊異なり
道化のりうゝとふ方此俗とふたひは是
くくくゝとあはる已は光太又女帝へ傳せ
時の事をとすくゝと是とおはるゝと訓れ親
くくゝとねとすゆ因て極うたれは異國人
えおねりゝとふくゝと典例格をさるれゝ
はねとあゝとすやとふゝと此宿威は異階次

前說的當

尤然

身もありとすゆれハ下等節方の事なり
内ををすゝもねまゝと友人とくも
まゝと獨えは法武あるゝねゝと脱は彼
地はあるへゝとひゝと者たハ洞もみられ
す海潮形ひゝと者けりゝと親ゝとあはれゝ
格節のりうゝと同一日本へれゝと母老ハ
まゝと玉の結氏ゝと帰るゝとハ吳那の人
なりとふゝとありてハ身とふゝとに任すといへ

とも彼よりして何そ是を御所やあらへる
ふやとあまうあすをまへて賜え所
れの式はそれ法合あるまう候そ実を
あうそれハ一己の能説乃

一玉王史婦の肖像布地土油繪彩色は画を
うう物二葉と太十帝御所うう求めり
携ひ来れり神彩実な生けり如く服飾
髪をさする状今一寫ふとえぬこれ

一皮

肖像をも縫へお市くらゐ撫にせりめて其
二葉とたふお

肖像畫物うう市申いゝも有

按に彼地方ハ國王のま容を生写すゝ通
世に名知るるなるありとすゆ時ハ歐邏巴
列洲の金銀錢貨をえりありと多くハその
まゝ高きけ面額を鑄するなり錢貨部ハ
女帝エシカテリナの像のつゝも金銀とあれと
併せあるゝ是を入るゝと異とするに異は
るや



退かより進く〜役人案内より車は乗りつゝ其
えおすの場へ行くを布ハ船を流す「三ハ」
といふ大坂のむらふにあるワレライツケ
榮美よりレイ
オストロフと

ありといふ橋なり凡ふ河を舟橋として布へを
用すけ船より大造のよく口官程の船とも
と三十六艘強くさうりよ〜橋をいつけ向ふの岸へ
渡せり〜並へたる船のよハ厚板を敷き〜
た右は欄干をつち車三ツ並へ懸らる〜程の

幅より程千の年毎端の布も人の足用ある
程の道をあげ又板の末端はも程千を付ケ二
重らん〜は車走る流あり自由はある程は
仕舞〜船橋なり〜これを渡りて
ウキハシ
ゆけの橋三ツ布
程有とゆなり

急の口へ入り〜は船程を場なり口方乃
岸ハ大砌石〜築き〜たる石垣より強
の大坂を越〜は附〜あり程は犬船を繋ぎ
あり〜るお場布を圍有り入口はつち人

船の大サ一層程も所へきく湯く二人乗るへき程に
その中へ大球くたる袋ハ大サ三層程も有へ
結城へ帰るくたるおの極は船の内人金とを
そ袋ハ天窓の南程へおそ袋へ風一まよえ海せ
しめくくみへぬくく動も持ちたるひく綱をえ
るさハ虫の糸くくする舞ひ有玉王入束の後ほど
なりくそ船中へ男女あへ乗り極り小籠をよに持ち
て面を飛びえおの大舞へ程をよりとく何うおやし

くうりきく程の程れくはをあるれそそ尾能きくさ
夢核の由無きも入へく目とめては後何れも今
お中りやく程のくこの程と夢へそ程程をもち人きそ
くおきくすれくたれハ船ハ袋ハ溪ひきくくといえ
とえくく程はきくくくくくくくくくくくくくくくく
天を仰きくくくくくくくくくくくくくくくくくく
えゆく程はきりはめよりくくくくくくくくくくく
えくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

風船飛走圖





一 け船の仕を程度して見て、うねれハ洋々
とめす大袋ハ糸を以て船へ繋ぎ、至ける
根より由 難陀をきく、大袋の下に紐はふ
袋より紐の如きあつてあり大蛇へり
する時は袋紐より大袋の尻尾を端り、
尻へり、尻尾を以て船中を目標
とせしむるなりとす。場を定め、
りるなり。

一 け船の人のユマよりある。おろし、け船
てハ初め、そと根より、そと、
そと、れ、そと、や、西王もこの場へ、
あり、一、そと、ハ、それなり、とす。け船南
の方、果といふ所、そと、船、そと、
の、由、乃、二、三里も、そと、の、地、
て、そと、尾、なり、そと、ハ、
け船、そと、そと、け船、
け船、そと、そと、け船、

おーも遠くはるきなうー二夜月乃
時ハえずくは思ひのまにけくときハけ不
うりムスクワの歌までもやうなう
乃間 七百里

いあ何のたれ何の用をるはあうはあます
人くられをエヤリとヤセーくエヤリハ
あま球のりけり

たは 按は何くエヤリといひくまへー

女を人きあす 同船するものと夢田の仕を
あやつの仕、女あくされなうーぬ事
や

け日けくーも法れをあー人をあつめ、根子
なりそををえあは新きーそのハ代残もあせ
ーころ夢ゆ其目を町くーそくもををほあ
空ををを居くーそのあはの根子をえく人
魂を消ーくーく

よくは記聞ありしを尋ねておぼ
しと也これ球の氣を含ませし氣息
カウ〜一處をくみせる性質と云中彼
ミヤリのおおするの理これと同一にて
略する〜但大小強弱の差別ある
ものなる處〜と云り
け袋を製し糸を
縫ひしをわけ
二三度ものゆせ残し
と云てわけ〜と云り

按しけ袋の圖天明の初年江戸糸向の

和榮加比丹某を枚指し〜なるを指糸

し〜これ去手巾をうり酒せり我々も

あ〜とわいさる由なれども氣にこのあ

きと板部〜ミヤガタラ 喉咽巴

天竺地方の海産
コトバハタヒア

こいふ所和榮の
けり まうて指せし〜と云り

携ひ来りし某は是なりと云ハリユリト

ミキツプといふ〜これハ糸船といふなり

と云例は略説あり 茂葉ををけ〜

和解をなすべし等ハ近所拂^{フランス}郎察國の

那府把^パ里斯^{レイス}といふ所にて新製する不

なり和榮^{ワエ}うきこれとリゴリト、シキツプ

系船の又「リコリト、スループ」^{リク止といえスループ}を小船のりなり

又「リコリト、バル」^{バルハ殊なりはるをを係考ふるリ}魯西亜^{ルシヤ}と云へるもこの

義をて何と云ふと等の三名あり拂郎察國

といふるらん「リコリト」^{把里斯の}と云地の「カルリス」

止といふ人創めて製此す船の毛を

丈幅に尺餘深サも同く人即人を裁

すへり森活式に沢はる島を併せ

る毛雜活中ニ裁せり公引せり但し

引張のり和榮人といへとも當時新製

なる傳説を記すもさうそをあるも

るすそ禮をも引すと云へたりをある

とある彼窮理の國俗天地間江海を

塞せる元々の理を窮むるる一日

より精且密なりとせゆそ理を究め
たる所より其その系力亦舟せし
風は御せしむへしとの工するもや候
そ実を述べせられふ所とせし
る所脱しるし尔後亦和榮將來け
と匾額は仰りしものなり享和の年
一紙官系これを一紙後るはまする
是をふししをえるは旧号と大ひは

なりそふに記あり紙すれハセルニラス

チエイレリース 拂廊寮の敷席 把野郎中の一地名 といふ所のカル

レスエトロベルトといふ人系球といふものを

製しし物せ候むるの事といふなり拂

廊寮よりハコロハアエロスクチクエといふ

よりこれ氣より 其のなる球といふ事と

是ゆそ中し暦教一子七百八十二年彼十

月初旬といふ教を所り是ハ我天明

その説と一々符合せり我輩秘めて
そ易をえてそ名を穿くこと既す其
年をうりさうをいふ事十歩方の長程万里
卵の邊を絶域に漂到し親くそ實を
そく又をうりた中邦へ海翔せしき
一夢にきて其其実境を記しる可
只此の夢を記しるは一夢を記しる可
但そ遠巧と要力とを何とていふを

知るへくさるのそ然れども沈研潜思し
細く其理を曉り彼長海より我輩を
紙珠の語に併せ考へるゝ其の事
よく思きしにや

何る目右リニテイツケの意の四ムスカームリし
いふ事ありけりえ物をつまされしは是は此
の産物歟とすへき果てを辨へるゝ不之其
因へりてそくは冥昧の靈寶場のこと

くさくさといふてゑる様は仕舞け一列毎はま
すり何り一ふえあす又そゝも何物ゝ
を并へてそゝに張れられもあれは文字を
知れこれハ張れ何れへき様もれく数千百種の
果ての果物目と驚きせしとれり禽獣虫魚
の類ハ葉ありは後ハ葉海は張てあり又葉金
入等ハある物も多しそ中目立てるへハあハ
象の骸骨一し枯骨ゆへそ支那^{ツカイ}を

はるまゝ金せし金へ備へたるもの

物の丸むき腹内へハつた物しそ金銀をある
を眼ふ玉眼と金と状生ける物のし

これハ國王の宝物の類^{オチ}たるをれをかく

装しそそ様と違せり

葉ありに納めたる胎胎^{カラコモリ}の全身は蛇乃

たまきの如く巻ついでる物何り是ハいり成
おとせたるは大難産より遂に死にたり

後これをとりてあげ終へるまで

世界中流石の衣被を集めあける。而して一向
え洲ぬおちたりと江戸人装束傘履など
えくくけ中。日本人の被もありええあり
やといふ所も何となくやええけく。彼人指
示してこれありといふをええ八夜江戸で貧民農
夫振のき用するが針とて刺し綴り古き
江戸より志うれもたしる日本被衣ええけく
刺子と云

何よりけ方の紋あり定ま終へ始めて我々の
たつとて知れり

これハ布帷子も縁も又本縁布子の
しきもの類もめ紋ありしものやれ
換へてそは用ひる。おの二枚あるを
麻糸より帆布縁などの如く刺しを
とつ針といふ紋もよかきねるものありねとも
凡そ弊衣とかく刺し綴りて農業漁
ヤフシキモノ

一 球を——あとするもの種を果えまぬ——
きおちるるへ——頑馬の漂氏皆耳目に觸
もさるものさうく何よりそふ川 海を私
もさるり——るるへ——唯さるるあるぬ斗
えそへあり——遺恨いふ計りる——
けを新よ大ひるる球を^{カマ}覆むる 而をえそふり其家
石造りう——十間後も何り二階作る戸口
の鏡を穿き内へ入るたり

そ内へ入るは百層後もあるへき大球あり
そ球より子のう——内ハ空虚へけ球の
内へ入る三天後の口あり中へ入れハ大光
るれり 繰り上げ有り 名これハ繰をひき
大佛の胎内へ入うたるや——おや何の仕
舞のあり一方の繰^子繰^じと——これハ内繰
旋轉——入口ハ塞うり上の方に月と
あま——の星あ——それたり 繰をひき
たる

人ノハ更ニ動ク又螺^子輪^子を止める
且一方遠所より入口の戸初めのとく
開きたりを旋轉する核子なり何と
いふわけのもの又此所の仕度お城や
毎へさる事なりまう二階へまうさ
早ハ板縁まで中を急ぐうあけた
るやくとあり球ハとすういあそれ
うるうとすりうとをせあハ珠^{タマ}の表^{ウラ}を

海世界の果なりるう思ふせハ此所の果
らなるこハ我オロニア^{オロニア}がこハそ
この本必日本なりとあらと指しこ
いふも亦エヤリといふ
系^系珠^珠ニエヤリ
いふなり
按はこれハ天地球を廣大な製し
おとるゆ内ハ天象を示せるもの
標^{スカタ}をのちハ地平のなりや併^{スカタ}東の象
のこみせさる核子なり大衆もオロニ

ア如き地方より得む所の星象のみを
るべきなり造巧の事測り知り
表の全く地球とみる球を量む所の板
縁ハ此の地平の事なりこれ又彈
弓せきとて減らすこれ其難を乞の已ム
る事なり

ペトルフルカが府圖中に見る

象厩今ハホルステイこの地より輸せらる

天地球を安んずる事なり或ハ此を解るる

右天地球の事其像一々此の地の星象の
天象をみせるものなり其曉なり
いとも其星象の事なり其星象を
すなり其の事なり





